

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, July 30th, 1956. No. 293.

# 關西大學學報

昭和31年7月 第293号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可  
昭和三十一年七月三十日發行（毎月一回三十日發行）  
通卷第二九三号



學園風景（千里山）

關西大學學報局

# 大学の自治

——判例に現われたその法的根拠——

春 原 源 太 郎

大学自治の限界は一般的に言えば社会と大学との関係であるが、具体的には警察権との関係として論ぜられる。即ちどんな場合に警察権の不当な干渉を排除して、大学の自由が守られねばならないかということになる。

研究の自由は時に各種の誤解を生ずることがあるが、そのために不当な干渉によつて妨げられるとすれば、大学は単に既成学問の教科書の伝達機関に墮する。われわれは全体主義強圧下にあつて、学問の自由も大学の自治も認められなかつた時代を体験した。本学にも憲兵的学内侵犯を不当とし、憤然として学園を去つた人のあつたことは今では想ひ出の一つとなつたであろう。

これら一般的な問題を論じようとするのではないが、最近東京高等裁判所が昭和二十七年二月に起つた東京大学「ポポロ座」事件について、直接大学の自治と警察権の問題を取上げて、かなり詳細に論じているので、問題点を紹介してみる。

この事件は第一審東京地方裁判所の無罪判決（昭二九・五・二）に対し、検察官から控訴し第二審東京高等裁判所は控訴棄却を言渡した（昭三一・五・八）ものであるが、事件は五年も前のことであるし、内容を理解する

ために概要を摘記すると、

ポポロ座というのは、東京大学の学生によつて組織され、大学当局からも承認された学内団体であつて、演劇の理論および上演の研究を目的とし、問題となつた演劇発表会は成規の手続を経て大学当局からも許可されたもので、証拠として提出されたものには教室使用願、使用料免除願、研究発表会は政治目的を有しない旨の保証書などがある。これらは演劇発表会を催すための学内成規の手続をふんだことを立証するためのもので、証人のうちには矢内原忠雄、尾高朝雄などと学者の名が出ているのも大学らしい。

問題は演劇会が反植民地斗争デーの一環として行われ、演劇の内容も松川事件に取材し、開演に先立つて会場で資金カンパや渋谷事件の報告がなされた等で、神経を尖らせていた警察は三人の巡査が入場券を購入して入場した。学外の者も入場券を購入して入場したということが、学内集会か否かなり議論になつているが、これは恐らく事件になつてからの警察側の議論で、目的は警察官の学内潜入であつたことは判決にも指摘され、「右大学の所轄警察署の警察官等は警備情報蒐集のため

め同大学構内においても予てより学生や教職員の身許、思想傾向および背後関係等を調査し、学内諸団体の集会状況、団体役員の動向等も不斷に査察監視しており、そのため同大学の自治は実質上相当重大な抑制を受けるので、同大学当局の教職員のみならず学生中にも心あるものは、之によつて学問の自由を阻害されることを憂ひ、右警察官等の学内潜入の排除方を屢々大学当局に訴えつゝある有様なりしところ」と言つてゐる。

当日潜入した巡査に対し学生が警察手帖の呈示を求め、巡査のオーバを引つぱつたりしたというので、暴力行為等処罰に関する法律違反に問われた事件である。

判決はかなり大胆に警察権と大学自治の関係に触れ、根本的に考えるべきであるとして、大学自治の積極面と消極面とに分けて論じてゐる。

積極面というのは、大学は学長の管掌権限を中心として、その大学内における研究および教育上教職員、学生の真理探求又は人間育成の目的に向ひ、一定の規則に従つて自治活動をなすことであり、消極面は「外部との関係において政治的又は警察的権力は治安維持の名下に無制限に大学構内における諸事態に対して発動することは許されず、たとえ客観的には警察的活動の対象となるが如き外観の事実ある場合にも、それが大学構内殊に教育や研究室内におけるものなる場合には事情のゆるす限り、先づ大学当局自らの監護と指導とに委ねて解決を図り、同当局の処理に堪えず又は極めて不適当なものとして同当局より要請ある場合初めて警察当局が大学当局指定の学内の場所に出動するを妨げずとする」にある。

裁判所は右の積極面は大学の性格として当然承認さ

れてきたことであり、消極面も大学自治の実態として公知の事実であるとし、若し警察活動の対象事実が存在する限り、大学内にも随時随所に警察権を発動し得るものとすれば、大学の生命である学問、教育の事業は實際上警察権の下に屈従を余儀なくされて、到底その自由と公正との保持が不能となる危険があり、これを排除するために大学自治の觀念は自然醸成されたものであるというのである。

そこであらためて問題になるのは警察は公共の秩序維持を任務とする。大学の自治を尊重するとすれば、そのために警察権行使の限界を画することが問題となる。

一例として、東京都では一般公衆の自由参加を認めない学生等特定者を対象として催される場合には、東京都の集会条例による許可を要しないことに文部省と都警視総監と協議成立した旨次官通達となつてゐる。

警察当局から見ても、学生をも含めた大学——というよりも具体的には学者と学生——に若干警察活動の対象を以て目せられる事態があるとしても、その予妨又は除去のため直に大学の使命とする学問や教育の実質を害する程度の警察活動を及ぼす如きことは、警察権の限界を越えるもので、この調和を警察比例の原則といひ、公共の秩序維持のための警察権は、除去を要する障害と適当な比例を保つべきであると述べている。言いかえれば、この原則の適用は警察当局の一方的判断に任ざるべきではない。

ポロ座事件で入場券を購入して、査察の目的で潜入した警察官の行動は、公務の執行でもなく、個人的な理由でなく警察目的のため入場したとしても、それは大学自治の法益を侵害したもので、学生の行動は原

則的には行過ぎではないとし、たまたま多少の行過ぎがあつたとしても、憲法的法益比例の上から、これを排除するための防衛行為は認められねばならないとする。こゝに大学自治の法益なる觀念を取上げて論じられてゐることは注目すべきである。

裁判長は刑法の久礼田益喜氏で、正面から大学自治の問題に取組み、警察権との限界を論じた判決は珍しい。憲法的法秩序にまで論及された判決理論には、尚いくつかの問題を含んでゐると考えるが、大学自治の原則はいかにして成立し、どのように保護されてゐるか、常識的理解から法律的理解にまで進めておこう。判決は「大学自治そのものが久しきに亘る慣行の末、今や憲法及び法律の積極的な保護をうけて既に確定的な法律制度」となつてゐることを認めてゐる。憲法的秩序として獲得し確立してゐることを大学の内部においてもあらためて認識すべきであらう。(理事)

## 海外の大学より

### ハーヴァード大学授業料値上

ハーヴァード大学では、一九五六—五七学年度より授業料を、学部での八〇〇ドルを一、〇〇〇ドルに、大学院で七〇〇ドルを八〇〇ドルに値上げすることになった。

なお過去二十七年間における同大学の授業料は、

|             |       |
|-------------|-------|
| 一九二九年から四八年迄 | 四〇〇ドル |
| 一九四八—四九学年度  | 五二五ドル |
| 一九四九年から五三年迄 | 六〇〇ドル |
| 一九五三年から五六年迄 | 八〇〇ドル |

と漸次上昇してゐる。

(海外資料より、出版部)

關西大學法制史學會 共編  
關西大學經濟學會經濟史研究室

## 大阪周邊の村落史料(第一輯)

A 5 版 二二〇頁 フランス綴箱入  
關西大學出版部刊行

本書は本学図書館に所蔵される貴重な村落史料のうち、特に大阪周邊のものを纏めて、關係學界に提供し、それぞれの分野における研究に寄与せんとして公刊されるものである。

第一輯は特に法制史及び經濟史關係のものを選んだが、唯これらのみならず、一般史學やその特殊研究部門にも裨益するところ多大なものがあると思ふ。大方の御高覧を乞ふ。

なお第二輯は目下印刷中であるが、これには「肥耕、拝借銀及頼母子」關係のものを選択集録してゐる。

頒 価 金 四〇〇円  
(なお御入用の方は大學出版部へ直接御注文下さい。)

## 昭和31年 校友名簿

昭和28年度版を  
増補・改訂しました  
同窓との親睦連絡に  
ぜひ御利用下さい

— 収載人員二六、〇〇〇余名 —

B 5 判 六〇〇頁  
実費頒価五〇〇円  
(送料当方負担)

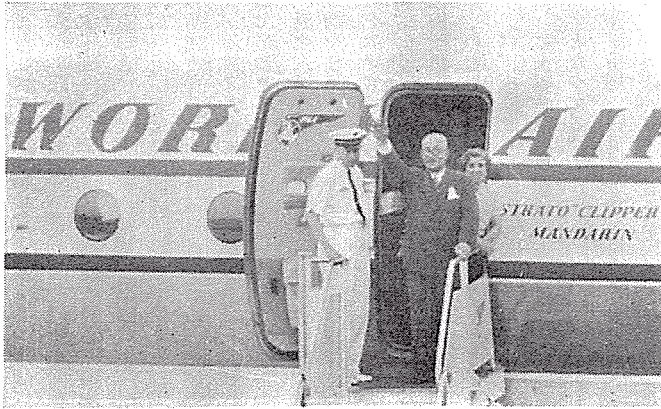
申込先 關西大學校友課  
大阪市大淀区長柄中通二丁目  
振替 大阪 一七八七五番



# 学内報

## 学長岩崎卯一博士渡米

大学視察と国際社会学連合  
第三回世界社会学学会に出席



本学学長岩崎卯一博士は関西大学から  
欧米各国における大学視察を命ぜられ、  
約三ヶ月間の予定で海外旅行の途に就く

為、七月一日(日)午後零時三十分発「は  
と」号で多数の歓迎に迎えつゝ大阪駅出  
発、同三日(火)羽田空港発「パン・アメ  
リカン機」で空路アメリカに向つた。

岩崎学長は、先ずアメリカ合衆国にお  
ける主要諸大学を視察したのち、欧州に  
渡り、イギリス・ドイツ・オランダ・イ  
タリア・スイス等で有名大学を順次視察  
し、その間に日本社会学学会代表として国  
際社会学連合第三回世界学会(八月末の一週間  
オランダ国のアムステルダムで開催)に出席する  
予定で、九月下旬帰朝することになつて  
いる。

## 中国、北九州各地で

### 「関西大学の夕」

三十一年度「関西大学の夕」のコー  
スは中国、北九州地方を選び、P・R  
・運動の一つとして、七月二十日より  
同二十八日迄八日間、鳥取、松江、岡  
山、広島、西宇部、小倉、別府等各地  
を巡廻、学術講演会やいろいろの行事  
を行い、各地で校友の絶大な歓迎を受  
けて親睦を深め、また一般市民に強い  
印象を残し、本学の名声を更に一段と  
高揚させた。

地、後援団体は左記の通りである。

法の在り方をきめるもの  
法学部教授 和田 豊二  
米と日本人  
経済学部教授 農学博士 鐙方 貞亮  
国家と大学との関係  
法学部教授 法学博士 池田 榮  
自立経済のゆくえ  
経済学部教授 経済学博士 森川 太郎  
急行(いずも)にちなんで  
広島高橋橋長 安井 榮三  
私が母であつたら  
本当にあつたはなし  
歴史の流れにさからうも  
関西大学雄弁会 山本 健一  
副幹事長 池田 功志  
見島雅謙と関西大学  
関西大学雄弁会 幹事長 池田 功志  
鳥取市(遷露) 鳥取市教育委員会  
鳥取市(小学校) 日本海新聞社  
松江市(白鷺) 鳥取県教育委員会  
松江市(小学校) 山陰新聞社  
岡山市(公会堂) 山陽新聞社  
岡山市(ホール) 広島市教育委員会  
広島市(渡辺) 宇部市教育委員会  
宇部市(会館) 好楽協会 宇部時報  
小倉市(小学校) 小倉市教育委員会  
大分市(大分教) 小倉市教育委員会  
大分市(学生会館) 大分合同新聞社

## 高木、吉永両教授に

### 文部省科学研究費

昭和三十一年度文部省科学研究  
究費交付金(各個研究)の審査結果  
は、この程内定通知があつたが、  
本学では高木(経済学部)、吉永  
(文学部)両教授が受領することに

なつた。

白鳳期の萬葉研究 吉永 登  
指数の経済理論の研究 高木 秀玄  
なほ昭和三十一年度文部省科学研究助  
成補助金は市原助教(経済学部)が受領す  
ることになつた。

日本人口論の歴史的研究 市原 亮平

## 教育職員免許法認定講習会

本学では、毎年夏期休暇を利用して、  
文部大臣認可による教育職員免許法認定  
講習会を行っているが、本年も七月二日  
(月)より八月十日(金)迄本学天六学舎で  
約六週間開講される。なお開講科目と担  
任講師は左記の通りである。

| 科目名                 | 単位 | 教職専門科目     |            |             |             | 教科専門科目     |             |                     |            | 一般教育科目     |            |
|---------------------|----|------------|------------|-------------|-------------|------------|-------------|---------------------|------------|------------|------------|
|                     |    | 教育心理学      | 教育原理       | 教育法         | 教育評価        | 哲学概論       | 日本史概説       | 人文地理学概説<br>(地誌学を含む) | 日本国憲法      |            |            |
| 教育心理学               | 4  | 関西大学 本庄 良邦 | 関西大学 川口 勇  | 関西大学 寛田 知義  | 関西大学 辻岡 美延  | 関西大学 蜂屋 慶  | 関西大学 大小島 真二 | 関西大学 田中 照           | 関西大学 横田 健一 | 関西大学 有坂 隆道 | 関西大学 宇田 米夫 |
| 教育原理                | 4  | 関西大学 本庄 良邦 | 関西大学 川口 勇  | 関西大学 寛田 知義  | 関西大学 辻岡 美延  | 関西大学 蜂屋 慶  | 関西大学 大小島 真二 | 関西大学 田中 照           | 関西大学 横田 健一 | 関西大学 有坂 隆道 | 関西大学 宇田 米夫 |
| 教育法                 | 4  | 関西大学 寛田 知義 | 関西大学 辻岡 美延 | 関西大学 蜂屋 慶   | 関西大学 大小島 真二 | 関西大学 田中 照  | 関西大学 横田 健一  | 関西大学 有坂 隆道          | 関西大学 宇田 米夫 | 関西大学 中谷 敬壽 | 関西大学 敬壽    |
| 教育評価                | 4  | 関西大学 辻岡 美延 | 関西大学 蜂屋 慶  | 関西大学 大小島 真二 | 関西大学 田中 照   | 関西大学 横田 健一 | 関西大学 有坂 隆道  | 関西大学 宇田 米夫          | 関西大学 中谷 敬壽 | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    |
| 哲学概論                | 2  | 関西大学 田中 照  | 関西大学 横田 健一 | 関西大学 有坂 隆道  | 関西大学 宇田 米夫  | 関西大学 中谷 敬壽 | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽             | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    |
| 日本史概説               | 2  | 関西大学 横田 健一 | 関西大学 有坂 隆道 | 関西大学 宇田 米夫  | 関西大学 中谷 敬壽  | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽             | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    |
| 人文地理学概説<br>(地誌学を含む) | 2  | 関西大学 有坂 隆道 | 関西大学 宇田 米夫 | 関西大学 中谷 敬壽  | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽             | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    |
| 日本国憲法               | 2  | 関西大学 中谷 敬壽 | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽     | 関西大学 敬壽             | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    | 関西大学 敬壽    |





第九回関西学生ボクシング、リーグ戦最終日六月十二日大阪府立体育館で行われ、同大7―2で破り昨年に引き続き連勝した。

|            |       |    |      |      |
|------------|-------|----|------|------|
| 順位         | ウエルター | ライ | フエザ  | パンタム |
| (1)関大1勝    | 級     | 級  | 級    | 級    |
| (3)関学3勝2敗  | 級     | 級  | 級    | 級    |
| (5)大経大1勝4敗 | 級     | 級  | 級    | 級    |
|            | 原     | 水  | 佐藤   | 天見   |
|            | 1回    | 判  | 3T   | 判    |
|            | 2分40秒 | 戦勝 | 1分7秒 | 戦勝   |
| (2)近大4勝1敗  | 中     | 出  | 梶    | 平    |
| (4)同大2勝3敗  | 波     | 川  | 田    | 沢    |
| (6)立命全敗    | 辺     | 田  | 島    | 田    |

鴨池グラウンドの陸上競技部員

第三十三回関西学生陸上競技対抗選手権大会に、本学陸上競技部は、数多くの優秀選手を送り出したので優勝を危ぶまれていたが、全員の健闘により同大に四十二点の差をもつて四連勝を成し上げた。

秩父宮杯第九回西日本学生陸上選手権大会は、鹿児島市鴨池競技場に於て行われたが、本学は中京大に6点の差で破れ六連勝を遂げた。

5月26日 関西学生陸上競技対抗選手権大会 於大阪市立ク  
5月27日  
第一日記録 (本学関係一等記録のみ) ランド

四百米リレー (1) 関大 43秒8 (野村、武内、中島、児子)

|     |        |         |
|-----|--------|---------|
| 走幅跳 | (1) 中島 | 7 米 0   |
| 砲丸投 | (1) 清水 | 12 米 81 |

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 棒高跳    | 百十米障碍  | 百十米    |
| (1) 小山 | (1) 河野 | (1) 野村 |
| 3 米 70 | 16 秒 8 | 11 秒 3 |

|       |      |    |        |       |                |          |
|-------|------|----|--------|-------|----------------|----------|
| 6月10日 | 6月9日 | 三跳 | 段(1)河野 | 14米26 | 西日本学生陸上競技対校選手権 | 於鴨池グラウンド |
|-------|------|----|--------|-------|----------------|----------|

走高跳 走中跳 第一日記録 (本学関係等記録のみ)

|       |     |    |     |       |
|-------|-----|----|-----|-------|
| 四百米リレ | (1) | 段大 |     | (大金新) |
| 砲丸投   | (1) | 清水 | 124 | 米     |
|       |     |    | 187 |       |

百棒槍三十米高身障碍跳投距  
(1111)  
河小磯中野山村店  
10 3 521  
秒米米米  
4 50913

バドミントン春季リーグに優勝

閩西學生バドミントン春季リーグは五月六日閩々戦で蓋をあけ本学は部員の努力により着々と勝星をあげ最終日強豪同大を破り5勝0敗で本年のチャンピオンを獲得した。

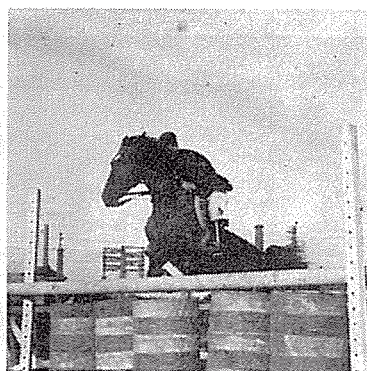
順立

|      |      |      |
|------|------|------|
| (5)  | (3)  | (1)  |
| 神商大  | 立命大  | 関大   |
| 1勝4敗 | 3勝2敗 | 5勝0敗 |

|      |      |      |
|------|------|------|
| (6)  | (4)  | (2)  |
| 大経大  | 関学   | 同大   |
| 0勝5敗 | 2勝3敗 | 4勝1敗 |

六月三日、大阪府立大学で大阪四大学馬術リーグ最終戦が行われたが本学は3勝0敗で優勝する。



主將小牧選手のホーム

|    |     |          |    |     |
|----|-----|----------|----|-----|
| 射撃 | 6・2 | 関西三大会    | 三位 | 於京都 |
|    | 6・3 | 日本学生射撃連盟 | 二位 | “   |
|    |     | 関西支部大会   |    |     |

卓球  
6・2  
関西学生春季  
リ  
二五

相撲 6・3  
グ戦 二位

西日本学生相撲選手権 四位 於藤井寺

水泳  
6・3  
三大学生競技大会 三位  
於大阪  
クラブ

バ  
レ  
ー

本 6・3 春 季  
梟 リ ー  
グ 戦  
四位 於 神 戸

6・16  
西日本イン  
カレックス・  
優勝於福岡

66  
1716  
関西学生選手権  
大会  
三位 於大阪

ボクシング

6・22 全日本王座決定戦 敗  
ホツケ I 加太防

6・24 東西対抗 一位 於沼津

新聞会では復刊十周年を記念して、六月八日午後一時より第一学舎講堂に於て

記念講演会を開催、当日は野球関々戦にも拘らず超満員の学生が参集し、最後迄熱心に講演を聴き、最後に正木ひろし氏との質疑応答が行われ、盛会裡に午後五時三十分過ぎ散会した。

当日の講演者、演題は左の通り、

一、京都五番町事件に思ふ

一、裁判にあらわれた  
人権侵害八海事件  
弁護士の著者  
正木ひろし

昭和三十一年七月三十日發行

關西大學學報 第二九三號

久井忠雄

株式 二 町 所

電話(35)七二八〇番

關西大學學報局發行所

10



校友 バツヂ

## 校 友

### 千里山昭八会

四月二十四日(火)午後六時より大阪郵政会館で例会を開催。

幹事より雑件の報告があり、ついで昭八会二十五周年記念行事について種々と希望見が交わされ、大体次のごとく確認された。

- 一、祝賀会を兼ねて大家族会を開催する
- 一、三泊程度の旅行を催す
- 一、記念品を作る
- 一、昭八会小史を刊行する

昭八会小史は大体今年中に原稿その他を集めること。

なお名案あらば幹事迄連絡することとして例の如く小宴に入る。盛会ながら名残を惜しんで十時散会。

当日の出席者

浦野健二郎、西村善雄、結城丙太、北村文之助、中村重男、中家利国、大島武夫、中江翼、木下忠夫、宮地正一、齊藤正典、岩橋清、平井三朗

### 大分支部定時總會

五月五日(土)午後五時より別府市駅前「光国」に於て昭和三十一年度定時總會を開催。

藤原副支部長の開会の辞に始まり、野田支部長より母校の近況報告、佐藤幹事、平居会計より事業報告、会計報告あり、



大分支部定時總會

後役員の改選が行われたが、支部長には野田氏が満場一致で再選、他の役員は支部長に一任と決定した。議事終了後、宴に入り原田幹事自慢の関大名物鯉の滝登りなど披露され、和気藹々の内に学歌を斉唱し支部長の音頭で母校及校友会の万歳を三唱し盛会裡に解散した。

出席者

池田稔、板井文義、浜田土雄、原田耕起、西村正英、得丸正雄、小野靖六、岡本義章、和田陸明、兼崎憲治、内田宏、野田博、矢野博、藤井清孝、藤原龜夫、佐藤友久、菊川徳則、宮本四郎、平居安雄  
新役員  
支部長 野田博  
副支部長 別本静哉、子浦淳美、西村正英、藤原龜夫  
幹事 友久、小野靖六、本木善重、内田宏、佐藤友久、小野靖六、原田耕起  
會計 平居安雄、藤野幸男  
監事 渡辺順四郎、得丸正雄

### 大分支部主催「関西大学の夕」打合せ

五月十八日母校より明石学生副部長、鉄井学生課長、学生二名を迎えて大分在住校友板井、西村、小野、渡辺諸氏と来る七月二十七日開催の「関西大学の夕」について打合せ大分合同新聞社を訪問して後援を依頼し、教育会館を視察して会場の契約をするなど準備を終った。

出席者

母校側 明石教授、鉄井学生課長  
支部側 野田博、和田陸明、内田宏、渡辺順四郎、得丸正雄、平居安雄

### 千里山昭八会

六月二十二日(金)午後六時より大阪郵政会館に於て第四十一回例会を開催。希望者が多いので前回の会場を使つた処、前回よりは出席者が増えて幹事を喜ばせた。大和銀行本店営業部次長に榮転した長沢氏が久振りに顔を見せる、有馬の奥から銘酒を提げて来た齊藤氏、七夕様の如き水野氏ありで会場は一瞬にして予科時代の童心に還つて忽ち欲談高笑の場となつてしまつた。

幹事よりの雑件報告後、二十五周年記念行事についても種々の希望や意見が出て、幹事は尻を叩かれる有様であつた。一応議事を終つた処で小宴に入る。十時半やつと散会。

当日の出席者

長沢健一、浦野健二郎、中家利国、結城丙太、藤本順二郎、北村文之助、西村善雄、木下忠夫、齊藤正典、大島武夫、美吉克之助、尾下瀧雄、高尾省三、宮脇慎三郎、水野政成、宮地正一、大川三二、平井三朗

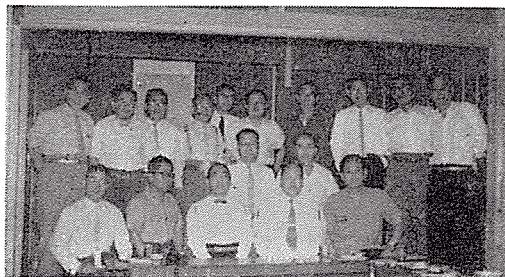
### 祥久会總會

六月三十日(土)午後六時から「双葉」で定例總會を開催。

当日雨の中、月末多忙の一刻を懐しい学友と語らんものと馳けつけた会員は、開会をまたずして談論の花を咲かせた。矢野会長の開会挨拶に始まり、最近アメリカより帰朝された野間秀泉氏の土産話に宴は益々高潮し、賢問、愚問続出、十数年振りに接する会員も学生時代にかえり、いつはてるともわからぬ宴も学歌斉唱、万才三唱で、九時頃散会。

出席者

矢野文雄、河内兼三、野間秀泉、加藤光治、山中輝司、川並秀雄、飛田陽一、高橋倉太郎、魚谷彌市、永井政次、江里口春志、松谷連哉、高橋和三郎、田坂敏夫、森下善雄、小嶋竜太郎、八十原武之助、村山壽行、細原吉章



祥久会總會



關西大學 法學論集 (近日刊行)

創立七十周年記念特輯

内 容

|                   |       |
|-------------------|-------|
| イェリネック国家学の分裂      | 岩崎 卯一 |
| 憲法裁判について          | 中谷 敬壽 |
| 人権宣言の民族主権         | 池田 榮  |
| 国家保障論             | 堀 堅士  |
| —多元的平和—           |       |
| 工業所有権侵害論に関する序章    | 内田 修  |
| —特に特許権の本質についての時味— |       |
| 錯誤理論の考察           | 植田 重正 |
| 原因において自由なる行為      | 中 義勝  |
| 私法の解釈             | 和田 豊二 |
| 氏名の制度             | 木村 健助 |
| —明治以降の変遷について—     |       |
| 相続財産の取得           | 福島 四郎 |
| 古代ローマに於ける自力救済     | 明石 三郎 |
| 株券発行前の株式の譲渡       | 西本 寛一 |
| アメリカ法における造船契約について |       |
| 商法に於ける營利の概念       | 池垣定太郎 |
| 古記の解釈             | 岩本 慧  |
|                   | 石尾 芳久 |
| 二四〇頁・かがり巻表紙       |       |
| 頒価 金三百五十円         |       |

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可  
昭和三十一年七月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學 經濟論集

創立七十周年記念特輯

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 労働の生産性測定の基本問題               | 高木 秀三  |
| 人口論対象の方法論序説                 | 市原 亮平  |
| ロビンソンの労働需要論                 | 三谷 友吉  |
| ウェブレンと教育経済学                 | 澤村 榮治  |
| J・S・ミルと社会主義                 | 杉原 四郎  |
| 本邦古代著作考                     | 端方 貞亮  |
| マニユファクチュア範疇について             | 矢口 孝次郎 |
| 一九世紀イギリスにおける土地経営の一典型        | 荒井 政治  |
| 一九世紀後半におけるアメリカ南部農村社会層の分化・分解 | 東井 正美  |
| 大戦以後の英國銀行業                  | 森川 太郎  |
| 終戦十周年の日本経済政策の動向             | 松原 藤由  |
| 日本造船業の成立と構造                 | 越後 和典  |
| 港灣と工業                       | 宇田 米夫  |

關西大學 商學論集

創立七十周年記念特輯

|                        |       |
|------------------------|-------|
| 英國の小売商                 | 山崎 紀男 |
| 海上売買におけるF・O・B条件について    | 賀屋 俊雄 |
| 株式の価値と価格の関係            | 々西庄次郎 |
| 観光経済学の基礎概念             | 河村 宣介 |
| 会社経営の合理化と会社制度          | 板橋 菊松 |
| 経営参加と労使協力              | 鮫江 城夫 |
| 「販光主義」の理論的根拠について       | 植野 郁太 |
| 固定資産再評価の会計実務           | 酒井 文雄 |
| 資本剰余金の概念と分類            | 河合 信雄 |
| 戦前及び戦後におけるアメリカ経済の成長と発展 | 安田 信一 |
| 絶対的貧困化の形態              | 河野 稔  |
| G・D・H・コールの社会化論         | 寺尾 晃洋 |
| 戦後カツオ・マグロ漁業の実態と展望      | 柏尾 昌哉 |

關西大學 文學論集

創立七十周年記念特輯

|                                          |                |
|------------------------------------------|----------------|
| 哲学                                       | 井上 吉次郎         |
| Community と Communism と                  | 岡野 留次郎         |
| サルトル哲学の出発点について                           | 大小島 真二         |
| ハイデッガーに於ける「無」について                        | 田中 照           |
| 倫理現象と政治現象の人間学的研究                         | 史学             |
| ヘーゲルとその時代                                | 秋山 博愛          |
| 近世城下の成立                                  | 魚澄 惣五郎         |
| 占地による前後方田垣の形式分類                          | 末永 雅雄          |
| 猿の心臓本生説研究序説                              | 高橋 盛孝          |
| サラセン帝国の駅邊局長について                          | 藤本 勝次          |
| 武漢時代に於けるコミンテルンの中共指導                      | 三上 謙聰          |
| 藤原鎌足伝研究序説                                | 横田 健一          |
| 文学                                       |                |
| 「玄聖集」の註釈書について                            | 飯田 正一          |
| 「あはむ日をくも」                                | 澤 源久孝          |
| 「昨日今日の物語」と「醒睡笑」                          | 金子又兵衛          |
| 已然形にやの添った形について                           | 吉永 登           |
| E・M・フォースター                               | 大西 昭男          |
| Evelyn Waugh の初期小説                       | 小野 勇           |
| 物語作家クラブ                                  | 進藤 浩二郎         |
| 「ヘムレット」の第一独白                             | (「幕二場」「二九一五行」) |
| 玉木 意志太年                                  |                |
| 英國小説における假構について                           | 角田 文雄          |
| 聖書の「Jacket」について                          | 廣瀬 捨二          |
| J・S・エリオットの「四つの四重奏曲」の標題について               | 堀 正人           |
| D・H・ロレンスの自叙伝                             | 山本 榮一郎         |
| アーサー伝説発展の概要                              | 三木 治           |
| アイダルベルト、シュナイフターの宿命                       | 見次 直雄          |
| 国際語と自然科学術語                               | 橋田 慶蔵          |
| 史学                                       |                |
| 蒙古文讀頌統会目錄                                | 石浜 純太郎         |
| 文学                                       |                |
| D.H. Lawrence の作品に用いられた英國中部地方言の人称代名詞について | 廣岡 英雄          |
| 彼の色調                                     | 星野 信夫          |
| 「H. G. Wells の『ツワリアン』におらわれた十六世紀フランス語     | 小方 厚彦          |
| Schiller ドイツ語の史的考察                       | 福本 喜之助         |
| 自然科学                                     |                |
| 精密インベストメント鑄造法                            | 入江 深           |
| 整數の関係                                    | 河村 信一          |

關西大學出版部

大阪府淀川区長柄通二丁目

発売所

關西大學

發行者